

令和4年度第3回ステップアップ自己研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会						
●日程	令和4年8月27日 (土) ~			令和4年8月28日 (日)			
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)						
●講師	細見 竜太 様 茅野 修司 様						
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)			令和4年8月28日 (日)			
	適宜会場入り 11:00 PGC 11:20 各自アップ 12:00 試合開始			適宜会場入り 12:10 PGC 12:40 各自アップ 13:20 試合開始			
●担当試合	令和4年8月27日 (土) 12:00 ~						
	対戦カード	FULL		VS		大阪教育大学	
		CC	田中真規氏	U1	伊達桃子	U2	森山裕介氏
	講師/主任	細見 竜太 様					
	講評	EOQ・EOGの終わり方が曖昧になっていた。答えを持っているのであればこだわってほしい。ファウルを吹くにあたって、今ベンチや観客が見ているところはどなか、バスケットを面白くする要素を阻害するものなのかも視野に入れて判定することも技術として取り入れる。ポジションアジャストが必要なプレイを見に行くときの前の位置はどこにいるのか、それによってアジャストがしやすくなる。					
	自己の感想	試合全体としては力のある方が勝った試合となりましたが、講評でも頂いたEOQ・EOGの終わり方が曖昧になってしまい、クレーとしては反省が残るところも多くあった試合でした。個人の反省としては、接触と責任だけでその後の展開がどうなっていくのかを判断せずに判定していたものもあり、ペイシエントホイッスルの意識が足りなかった場面が多いと感じました。また、ポジションアジャストに関しても最初の位置が悪く、結果的に見えにくい位置にいたり、多めに動かないと見えなかったりと、判定がしにくい要素を作っていたので、プレイヤーの意図を汲みつつ自分がコネクトできるように準備しなければいけないと感じました。					
	令和4年8月28日 (日) 13:20 ~						
	対戦カード	大阪体育大学		VS		大阪人間科学大学	
		CC	浅野祐樹氏	U1	森照代氏	U2	伊達桃子
	講師/主任	茅野 修司 様					
講評	試合が無事に終わったことは良かったが、要所要所でクレーとして協力して運営していかなければならない場面があった。特にキープレイヤーへのメッセージの入れ方、試合全体を通しての接触の整理、ベンチエリアに対しての対応の仕方、試合がクワローイングしていく時のクレーとしての対応の仕方など、課題は多くあった。クレーチーフメンタリティーを発していく必要があった。						
自己の感想	出るべきところや判定すべきところで迷ったり勇気が出なかったり、出れなかったところが顕著化した試合でした。自分のアクティブマインドセットの仕方が良くなかったのが反省点です。もっとレベルが高い試合でのゲームフローの捉え方や、選手の意図を汲み取った上での判定、ベンチとのコミュニケーションを学ぶべきだし、トライをしなければいけないと感じました。課題のひとつであるポジションアジャストはトライできた点であり、手ごたえがあったもの、なかったものどちらもあったので、今後修正をしていきたいです。このような社会情勢のなか研修会を開催していただき、ありがとうございました。						

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第69回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和4年8月28日 (日)		
●会場	箕面市第一総合体育館		
●講師	茅野 修司様 細見 竜太様 石川 淳也様 浅野 祐樹様 村田 尚美様		
●スケジュール	令和4年8月28日 (日) 10:00 実技開始		
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 10:00 ~		
	対戦カード	大阪体育大学 VS FULL	
	主審	CC 花谷 榎子様 U1	重松 志保様 U2 山口 翔
	講師/主任	浅野 祐樹様	
	講評	Lのポジションでの、視野の当て方については振り返る必要がある。特にエッジの見方を修正していく必要があると感じた。トラベリングについては途中から修正しようという気持ちは感じられたが、明らかなものをゲームの初めから吹いていくことが必要。声がよく出ており、伝わりやすかった。クロックの表示や、選手交代の確認など、アイコンタクトをして確認する必要があった。	
自己の感想	良かった点は声を使って、わかりやすく伝えられたところ。改善が見込めるところとして、トラベリングについては、試合の初めのほうから、しっかり鳴らしていくことが必要だと感じた。判定について、カテゴリーの違うチームの試合で、プレイコーリングの適用に差が生まれてしまっていた。統一した基準を示し、しっかり影響を見ることが必要だと思った。メカニクスの部分について、指摘のあったLのエッジの見方をはっきりしていく必要があった。アクティブなものがどこにあるのかをもっと意識していきたい。最後になりましたが、このコロナ渦の中で研修会を企画運営、また開催していただきました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に感謝申し上げます。有難う御座いました。		

2022年度 第3回ステップアップ自己研修会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会						
●日程	令和4年8月28日 (日)						
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)						
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部						
●スケジュール	令和4年8月28日 (日)						
	10:40 PGC						
	11:25 コートイン 11:40 トスアップ						
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 11:40 ~						
	対戦カード	近畿大学			VS	クレバー	
	審判	CC	石川淳也氏	U1	田中孝史	U2	正水 剛氏
	講師/主任	細見 竜太 様					
	講評	<p>第1クォーターでAOSのケースをNotAOSにしたことを第1クォーター終了後にクルーで話をするべきであった。</p> <p>第1クォーターから第3クォーターまで穏やかなゲームだったので最終クォーターでの異論表現に対して、まあまあで終わらせずにTFをCallする事でゲームが締まって終了する事が出来たと思う。</p> <p>ショットクロックバイオレーションが成立した時は必ずメインクロックは動いていると思っていた方がよい。</p>					
	自己の感想	<p>ファールCallをした時、選手にしっかりとメッセージを伝えないと同じ事を繰り返してしまうので、Callのみだけではなく言葉を使ってメッセージを伝える事も大事だと思いました。</p> <p>反省点としては最終クォーターであった2つのTFのケース。1つは駆け寄るもTFをコール出来ず、もう1つは見えていなかった。どのような事象、事情があっても行き過ぎた異論表現に対してはルールブック通りにTFのCallが必要だし、ゲーム自体の価値を下げてはいけないと痛感した。</p> <p>ゲームの最初から終わりまで色々な事をクルーで予測し話し合い、色々な事象に対応出来る様なメンタルが必要だと感じた。</p> <p>最後になりましたが、このコロナ渦の中で定期的にステップアップ研修会を企画運営、また開催して頂きました大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、大会を運営をされておりました、大阪府バスケットボール協会競技会委員会の皆様、有難う御座いました。</p>					

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第69回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和4年8月27日 (土) ~		令和4年8月28日 (日)
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)		
●IR	茅野 修司 様、細見 竜太 様、石川 淳也 様 浅野 祐樹 様、村田 尚美 様		
●スケジュール	令和4年8月28日 (日) 9:30 各自会場入り 9:45 PGC 10:35 更衣、W-up、各自準備 11:25 コートin、コートインスペクション 11:40 トスアップ ゲーム終了後、IR講評 適宜解散		
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 11:40 ~		
対戦カード	タツタ電線		VS Fantasia.LTD
主審	CC 木村 裕也 氏	U1 河崎 亮介 氏	U2 平出 圭佑
IR	村田 尚美 様		
講評	ゲーム全体としてショットに対する手のコンタクトについてクルーとして丁寧に見ている印象だった。テンポセットという意味ではプライマリーがしっかりイリーガルを示すことでメッセージしていくことが大切であり、セカンダリーとして笛を入れるべき大きなケースだったのか？アングルはクリアに取れていたのか？というところについてクルー全体として振り返ってみてほしい。自分の目の前にアクティブなマッチアップがなかったとき、少し視野を広げてみることは大切だが、現象が起きたときにパートナーのコールを待つことが課題。POCにもこだわって、どこがイリーガルだったかを明確にしてメッセージする必要がある。パートナーのコールに対しての異論表現にワーニングを入れたことはよかったが、大きく腕を上げての異論表現であり、ダイレクトTFの要素は十分にあったので、次のステップとしてチャレンジしてもよかったと思う。プレゼンとしてファウルコールからTOレポートまでが流れてしまっていて、もったいなかった。しっかり止まってメリハリをつけると印象がずいぶん変わってくる。		
自己の感想	これまでのようにゲームに対して後手でレフリーをするのではなく、意図して積極的にレフリーしようとトライしました。気になって視野を広げすぎてしまう部分は課題であり、パートナーのコールを待つ余裕が生まれると、いろんな場面でもっともって判定の精度が上がってくるのではないかなと感じました。異論表現やフェイクに対してワーニングを示すことにチャレンジできたことはよかった。ゲームコントロールとしてCCメンタリティーを出していくことにもこれから積極的にチャレンジしていきたいと思えます。今回の研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。着実にステップアップしていけるよう、今後とも取り組んで参ります。		

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和4年8月27日 (土)				
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)				
●講師	細見 竜太 様 森 照代 様				
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)				
	12:30 会場入り				
	13:30 審判控室集合・PGC 各自ウォーミングアップ				
	13:45 コートイン				
	14:00 ゲーム開始				
●担当試合	令和4年8月27日 (土) 14:00 ~				
	対戦カード	近畿大学		VS	Black Jack
	CC	堂國 様	U1	北野 謙悟	U2 國守 様
	講師/主任	細見 竜太様			
	講評	・Tの位置がボールにつられて高い。(ボールラインを意識しすぎている) ・コールの後の所作が慌ただしい。 ・プライマリーのレフェリーがどう判断しているのかを汲んでセカンダリーからコールする。 ・ゲーム終盤でのアクションに吹き急がない。			
	自己の感想	ご多忙の中本研修会を開催して下さった関係者の皆様誠にありがとうございました。ゲームの後半の明らかにファウルではないコンタクトを自分のプライマリでもないのに吹いてしまったことと、終盤の大事な局面でDFのアクションに対して吹き急いでしまい、不必要なコールをしてしまったことが今回の大きな反省点である。また、ボールマンがアクティブなマッチアップでもないのに、無駄にボールラインを意識しすぎてTの位置が高くなってしまい、次のプレーに遅れて、良くないポジションからプレーを捉えてしまっていた。「1歩」動くことの意味・重要性をもっと意識して、常に次のプレーに対応できる良いポジションアジャストを心掛けていきたい。			

2022 年 度 第 3 回 ステ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第69回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和4年8月27日	(土) ~	令和4年8月28日 (日)
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)		
●講師	茅野修司 様 細見竜太 様 石川淳也 様 浅野祐樹 様 村田尚美 様 近江伸郎 様 古島彩代 様 北村仁 様 河崎亮介 様 森照代 様		
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)		
	11:30 各自会場入り 12:00 プレゲームカンファレンス 13:45 コートインスペクション 14:00 トスアップ 16:00 ポストゲームカンファレンス		
●担当試合	令和4年8月27日 (土) 14:00 ~		
	対戦カード	大阪産業大学	VS クレバー
	審判	CC:木村裕也 氏 U1:池嶋一幸 氏 U2:貝崎塁斗	
	講師/主任	茅野修司 様	
	講評	ディフェンスファウルが起きた後、オフェンスが肘をディフェンスプレイヤーの顔にぶつけたケースで、オフェンスファウルのコールをしたが、ディフェンスファウルを記録しさらに、オフェンスのアンスポーツマンライクファウルを記録するべきであった。トラヴェリングのコールとファウルのコールが同時に鳴ったケースで、両審判がアイコンタクトだけでトラヴェリングのコールを優先したが、寄り合って協議し最終判断するべきであり、そうすることで説得力もある。ゴール通過後のボールを持ちさらに即座に相手プレイヤーに渡さなかったケースでワーニングも無かったが、DOGでダイレクトテクニカルファウルが妥当であった。ファウルをされたプレイヤーが勢いで壁にぶつかりさらに、壁を叩いたケースでクルー全員がその現象を捉えられていなかった。誰かが気づきテクニカルファウルを宣するべきである。どちらかのチームのファウルはよくコールされるが、もう片方のチームのプレーは本当にクリーンなのかもっと吟味するべきである。明らかなトラヴェリングが鳴るときと鳴らない時がある。精度を上げていくようにする。	
	自己の感想	今回の研修会はU25研修生からの特別枠として参加させて頂いた研修会で、たくさんの学びや課題が発見でき非常に内容の濃いものになりました。まずは、ゲームを通して引き出しの少なさが顕著に現れました。様々なプレーや状況に対応し正確な判定をする必要があります。そのためにもよりたくさんの試合を経験したり、JBAが公開しているクリップを見直したりする必要があると思いました。講評にある通りファウルバランスでモヤモヤが残ったまま試合を進めてしまいました。イリーガルなコンタクトと感じていてもシンプルにコールできなかつたり、コート上で表現できなかつたりしていることが課題であると感じました。失敗を恐れずトライしてみることが今後の成長につながるのでチャレンジしていきたいです。また、なぜコールできなかつたのか、次コールできるようにするにはどうすべきかを映像を用いてフィードバックしたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を設けて頂きました、大会運営の方々、大阪府審判委員会の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。	

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第69回 大阪総合バスケットボール選手権大会						
●日程	令和4年8月28日 (日)						
●会場	箕面スカイアリーナ						
●講師	茅野 修司 様 細見 竜太 様 石川 淳也 様 浅野 祐樹 様 村田 尚美 様						
●スケジュール	令和4年8月28日 (日)						
	13:20 実技開始						
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 13:20 ~						
	対戦カード	大阪体育大学			VS	大阪人間科学大学	
	主審	CC	浅野祐樹	UI	森照代	U2	伊達桃
	講師／主任	茅野 修司 氏					
	講評	ゲームの始まりで意識することの一つがテンポセットであるが、そのテンポセットができていなかった。ゲームのポイントとなるマッチアップのところでのリバウンドの攻防での手の使い方にたいしてテンポセットするチャンスだった。同じく、3Qでもテンポセットが必要な場面でプレーヤーがコンタクトを起こして倒れるケースにも笛を入れるチャンスだった。ポストのマッチアップでもどちらから仕掛けているのがちゃんと判定できていなかった。判定に対してベンチがアシスタントコーチまでもが立って異論表現している場面でも、クルーで協力してコールする意識が足りなかった。					
自己の感想	ゲームの始まりでテンポセットができないとその後のゲームにも大きく影響するし、クルーにも迷いを与えてしまうと思うので、自分の中で、このゲームは何が良くて何がダメなのかを明確にプレーヤーに伝えるためにもテンポセットを意識して取り組みたい。また、このゲームのポイントのポストのマッチアップの所の判定が良くなかったので、さまざまなゲーム映像を見たり、経験を積んで自分の中の引き出しを多く持ちたいと思う。今後、上級を目指すうえで、ファールなどの判定だけでなく、ベンチ管理というところにも意識を持って、コート上でベンチに対しても良い悪いを示せるようにトライしていきたい。						

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度(2022年度) 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和4年8月27日 (土)		～	令和4年8月28日 (日)		
●会場	箕面第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	茅野 修司 様、細見 竜太 様、浅野 祐樹 様、村田 尚美 様、石川 淳也 様					
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)		箕面第一総合体育館(スカイアリーナ)			
	開講式なし 各自割り当て時間に合わせて集合 10:40 更衣の後PGC、W-up 11:45 コートin 11:50 コートインスペクション 12:00 実技開始 閉講式なし 適宜解散					
●担当試合	令和4年8月27日 (土) 12:00 ～					
	対戦カード	Fantajista. LTD		VS	大阪体育大学	
	主審	主審	石川 淳也 氏	U1	河崎	U2 正水 剛 氏
	講師／主任	浅野 祐樹 様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・クルー3人で協力しながら、大きなトラブルなく試合を運営することができていた。(それぞれプライマリーエリアから笛が鳴っており、いずれかのレフリーがオーバーオフィシエイティングをする場面などはなかった。) ・ゲーム序盤でのtempo setの意識は大切だが、foul callの内容によってはその後にgame controlを失うことにつながるので、明らかなものをtempo setとしてfoul call(あるいは明らかでなければno call)する必要がある。 ・shot clockの訂正はスムーズでよかった。ベンチサイドでクロックの訂正、プレイの再開までを全て一人で対応できていた。 				
	自己の感想	<p>今回のゲームでは、現在重点的に取り組んでいるクロック管理について実際に対応することができました。この成功例を活かし、次回のゲームでもさらに表示物やクロックの管理、TOとの連携に努めていきたいと思えます。</p> <p>また、プレイコーリングやメカニクス、IOTについてはいくつか改善する必要があるので引き続き課題に向き合いながら取り組んでいきます。</p> <p>このようなご時世の中での研修会実施は極めて大変なものだと思えますが、今回この大会を運営していただいた大阪府バスケットボール協会の皆様、ならびに本研修会を開催してくださいました審判委員会の皆様に深く感謝申し上げます。</p>				

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度(2022年度) 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和4年8月27日 (土) ~		令和4年8月28日 (日)			
●会場	箕面第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	茅野 修司 様、細見 竜太 様、浅野 祐樹 様、村田 尚美 様、石川 淳也 様					
●スケジュール	令和4年8月28日 (日)		箕面第一総合体育館(スカイアリーナ)			
	開講式なし 各自割り当て時間に合わせて集合 9:50 PGC 10:40 各自更衣後、W-up 11:25 コートin 11:30 コートインスペクション 11:40 実技開始 閉講式なし 適宜解散					
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 11:40 ~					
	対戦カード	タツタ電線		VS	Fantajista. LTD	
	主審	主審	木村 裕也 氏	U1	河崎	U2 平出 圭佑 氏
	講師/主任	村田 尚美 様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・序盤からshotに関するtempo setをしている意識はクレー全体で感じられたが、Marginalのケースがいくつかあった。また、逆に鳴らさないといけないプレイがなっていないというチグハグさが感じられた。 ・クレーの判定に対してジェスチャーを交えたベンチからの異論表現に対して、毅然とした態度でテクニカルファウルをコールするなどの対応が必要であった。 ・3人とも歩きながらレポートをするなど、レポートにメリハリがない。レフリーの見せ場なので、立ち止まってしっかりとレポートをする方がよい。 				
	自己の感想	<p>講習会の最後に茅野様がお話しされていた「B級からA級になるために必要なチャレンジ」がところどころ点するゲームでした。Magic timeを把握して、Game clockの訂正などはチャレンジすることができましたが、ベンチ管理やプレゼンテーションに課題があったと思います。ここからさらに成長していくためには、これらの課題を克服するだけでなく、仮に失敗したとしてもA級になるために必要なチャレンジをコート上でトライする勇気を持つことが大切なのではないかと今回の講習会で感じました。</p> <p>次回のゲームでも失敗を恐れずにチャレンジをしていこうと思います。さまざまなお指導ありがとうございました。</p>				

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和4年8月28日 (日)		
●会場	箕面市立第一総合体育館(スカイアリーナ)		
●講師	近畿IR部会 インストラクター 大阪府審判委員会 インストラクター		
●スケジュール	令和4年8月28日 (日)		
	10:00 実技開始		
	コロナ禍のため、開校式等を行わず、研修生は割当ゲームに合わせて集合し、終了後適宜解散とする		
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 10:00 ~		
	対戦カード	大阪体育大学	FULL
	主審	CC:花谷 槿子氏 U1:重松 志保 U2:山口 翔氏	
	講師/主任	浅野 祐樹 氏	
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・mechanicsについて、大きな崩れもなく安定していた ・violationについて。 ・トレイル、リードでadjustの工夫をしてプレーをみている事が伝わったのがよかった。その使い方を、センターの時にも使い分けができるとより良くなる。 ・クルーでセンターの強みが発揮できている事があった。その中で、3QでtransitionによるUFケースがあり、foul call refereeと、secondary refereeが歩み寄ってcommunicationをとりCCMを発揮して欲しいところだった。 ・last one play の shot clockについてももう少し意識してTOとcommunicationを取った方が良かった 	
	自己の感想	<p>まず初めに、コロナ禍によりご多忙の中、本研修会を開催していただき本当にありがとうございました。</p> <p>さて、今回の研修会を振り返って、第1回の研修会でいただいたアドバイスをもとに今まで自分の中でトライしてきていることが、少しずつではありますが改善できているのかなと思いました。その中で、C→Tにポジションが変わるタイミングやポジションアジャスト、コールしてからの所作をゆっくりと堂々とするなど課題は残りますがブラッシュアップできたように思います。今後の課題として、今回の講評に合わせて、Cの時のアジャストの仕方の改善、マジックタイムの意識などを自己研鑽して、今後活かせるように日々精進していきます。</p>	

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和4年8月27日 (土)					
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	細見 竜太 様					
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)					
	10:30 控え室集合 11:00 PGC開始 11:40 控え室集合 11:45 コートイン 12:00 試合開始					
●担当試合	令和4年8月27日 (土)					
	対戦カード	FULL		VS		大阪教育大学
	クルー	CC	田中 真規	U1	伊達 桃子	U2 森山 裕介
	講師／主任	細見 竜太 様				
	講評	<p>・プレーコーリング(特にファウル)が軽いものが多かった。審判だけが把握している現象ではなく、誰が見ても理解できる現象について取り上げるという意識を持つ必要がある。</p> <p>・この試合の良い部分を高め、観戦している人も含めてバスケットボールの良さや楽しさが伝わるように努めなければいけない。</p> <p>・ルールを判定することも大切だが、ルールはゲームの価値を高めるために必要なものである。そのため、プレーヤーやベンチ、観ているお客さんがどのように感じているのかという視点を考えることも大切になってくる。</p>				
	自己の感想	<p>プレーコーリングについて</p> <p>・ポストカンファレンスでご指摘いただいた点を踏まえて映像を見返したところ、何の判定をしたのか分かりにくいコーリングがいくつもあった。現場では、審判として正しく判定したつもりだったが、それが1試合を通して必要な判定だったかと言われると、そうでない判定もあったと思う。</p> <p>プレゼンテーションについて</p> <p>・立ち居振る舞いの見た目を良くし、プレゼンテーションで“強く・分かりやすく”を目標として意識した。力強さはできていたと思う。ただし、立ち姿としてはもっとレポーターの際に移動する動作をスマートに動く綺麗な見え方に変わると感じた。</p> <p>TO管理等について</p> <p>・担当者が前後半で入れ替わる状況であったが、事前の確認などでしっかりとコミュニケーションが取れた。しかし、24秒バイオレーションがあった際、メインタイマーが止まっていなかったケースがあったので、マジックタイムを用いて修正する必要があった。</p>				

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和4年8月27日 (土) ~ 令和4年8月28日 (日)		
●会場	箕面市第一総合体育館		
●講師	近畿IR部会 インストラクター 大阪府審判委員会 インストラクター		
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)		
	11:00~PGC 12:00~ゲーム開始		
	令和4年8月28日 (日)		
	10:40~PGC 11:40~ゲーム開始		
●担当試合	令和4年8月27日 (土) 12:00 ~		
	対戦カード	Fantasista.LTD VS 大阪体育大学	
	主審	CC 石川 淳也 氏	U1 河崎 亮介 氏 U2 正水 剛
	講師/主任	浅野 祐樹 氏	
	講評	映像を確認しながら反省を頂きました。 ・オフェンスからの体の寄せに対するの判定が良かった ・メカニクスが崩れたケースの対処方法をPGCで確認しておくこと ・テンポセッティングしてきたものと異なる判定が試合終盤にあった	
	自己の感想	1試合通じて丁寧に判定できスムーズなゲーム運営ができたと思います。 私は数回、相手審判に助けられたケースがあったと感じていたが、相手審判・講師からはそのような印象はなかったと講評頂いた。自分の感じ方とコート外から見る印象の違いがありました。これからは自信をもって行きたいです。 反省点は、センターからトレイルにローテーションが行われた時に、慌ててプレーを見に行き過ぎ、マージナルなものをファウルとして取り上げてしまったケースがありました。このケースではローテーションが起こることが予測できれば、対応できたと思います。またこの判定までベンチやプレーヤーからもアピールなどなく進行していたが、ここでゲームの雰囲気を変えてしまう危険性があったと感じました。	
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 11:40 ~		
	対戦カード	近畿大学 VS クレバー	
	主審	CC 石川 淳也 氏	U1 田中 孝史 氏 U2 正水 剛
	講師/主任	細見 竜太 氏	
	講評	・ゲーム序盤でAOSでの判定で違和感のある判定が続いた。 ・前半でオビアスなものがしっかり取り上げられている中で、エッジで起こったインパクトの大きなケースを判定出来なかったのがもったいない。 ・1ゲーム通じて穏やかであったが、異論表現があったケースがあった。その異論表現は大きなものではなかったが、このゲームの雰囲気から見るとテクニカルファウルを宣すべきである。表現の大きさなどを判断基準にすることが多いが、ゲームの雰囲気も判断材料とすること。	

	自己の感想	<p>終始、接戦であり良い緊張感のあるゲームだったと思います。</p> <p>反省点はリードでエッジからシュートが放たれる瞬間に、体の向きを平行にすることができなかったが、3vs2をピークしてしまった。ピークしたが、トレイルも同時に3Pのシグナルを出していたので、着地まで判定せず目を切ってしまいました。その後着地で起こったことを私もトレイルも判定できませんでした。相手審判にも混乱させる原因を作っていました。今後は体の向きを平行にしてから、外に広がるようにしたいです。</p> <p>最後になりましたが、今回の講習会を企画して下さりありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。</p>
--	-------	--

2022 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会						
●日程	令和4年8月27日 (土)						
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)						
●講師	近畿IR部会インストラクター、大阪府審判委員会インストラクター						
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)						
	各自会場入り						
	12:00 PGC						
	12:50 更衣、各自ウォーミングアップ						
	13:45 コートイン、コートインスペクション						
14:00 試合開始							
●担当試合	令和4年8月27日 (土) 14:00 ~						
	対戦カード	大阪産業大学			VS	クレバー	
	クルー	CC	木村 裕也 氏	U1	池嶋 一幸	U2	貝崎 壘斗 氏
	講師/主任	茅野 修司 様					
	講評	<p>・大学生と地域リーグのチームというカテゴリの違うチーム同士の対戦であった。ゲーム全体を通して大学生の分かりやすいファウルはコールされるが、地域リーグのチームがするようなファウルがコールされていないイメージだった。</p> <p>・ファーストコールはやはりゲームでの基準を示すための大切なコールである。難しく考えるのではなく、もっと簡単に取り上げていく方が良い。そのためにはCtoCなどベーシックの徹底をすることが重要である。</p> <p>・クルーでのコミュニケーションをもっととってもいい場面が多々あった。目線だけ合わせて解決できるケースとそうでないケースがある。今日のゲームでは、ディフェンスファウルの後のアンスポーツマンライクファウルや、ファウルコールとヴァイオレーションのダブルコールなど、落ち着いて処置をしていくことでより良いゲームになっていく。</p> <p>・選手が壁を叩く場面があった。TFやUFはもっと簡単にコールしていくことが大切である。</p>					
自己の感想	<p>・自分自身の課題として2つテーマがあってゲームに臨んだ。「プライマリの徹底」と「センターポジションでの積極的な判定」である。しかし、それを考えすぎるばかりに笛を入れるタイミングが遅くなってしまったり、コールできないケースがあった。これを解消するためにはよりプレイの予測をすること、基本的なことを徹底することが必要であると感じた。そして改めてファーストコールの大切さを感じることができた。</p> <p>・カテゴリが違うチーム同士ということもあり、ファウルの質も違った。そのことにより早く気づき笛を入れる必要があった。分かりやすいファウルばかりがコールされる場面が目立ってしまい、もっと整理する必要があった。</p> <p>・ポストゲームカンファレンスで自分達がなんとなく流しているが、良く考えるとより良い処置の方法をすべき場面が多数あった。ルールに則り、ゲームをより良い方向に導いていくことが重要であると改めて感じる事ができた。</p> <p>・今回このような体験をさせていただきましたことに、大阪府審判委員会の皆様に心より感謝申し上げます。この経験を明日のゲーム、来月の審査会に活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。</p>						

令和4年度第3回ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第69回大阪総合バスケットボール選手権大会			
●日程	令和4年8月27日 (土) ~ 令和4年8月28日 (日)			
●会場	箕面市第一総合体育館 (スカイアリーナ)			
●講師	茅野 修司 様 細見 竜太 様 石川 淳也 様 浅野 祐樹 様 村田 尚美 様			
●スケジュール	令和4年8月27日 (土)			
	各自会場入り			
	13:00 PGC 13:45 コートイン 14:00 TipOff			
	令和4年8月28日 (日)			
●担当試合	各自会場入り			
	9:00 PGC 9:45 コートイン 10:00 TipOff			
	令和4年8月27日 (土) 14:00 ~			
	対戦カード	近畿大学	V S	Black Jack
主審	CC 堂國 氏 U1	北野 氏 U2	國守	
講師/主任	細見 竜太 様 森 照代 様			
講評	T/Cのポジションアジャストが不安定である。何が起きるのかを予測し先にポジションをとりステイして見るのが重要。ポジションアジャストを正確に行うことで見えるプレイも変わってくる。クロスコールが複数回あったが、プライマリのレフリーの位置までを把握しセカンドリーとして必要なものであったのかまで考えることが大切である。1QのEOQの訂正について時間をかけずに速やかに訂正・リスタートをさせるようにするべき。 24secVioの成立の時にメインクロックが1秒進んでしまっていた。マジックタイムを持ちクロックの管理への意識を持つべき。			
自己の感想	Tの位置が高くなる傾向にある。原因としてオンボールを気にしすぎている。より良いポジションでプレイを判定するためにポジションアジャストの意識を高める必要があった。正しい動きを習慣化し、常にポジションアジャストができるようにするべきである。1QのEOQの訂正について簡単に速やかに行うべきであった。不必要な時間ができてしまい観客にとっても不要な時間になってしまった。表示物の確認を習慣化することで訂正が必要な時に答えを持っておくようにするべきであった。			
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 10:00 ~			
	対戦カード	大阪人間科学大学	V S	関西外国語大学
	主審	CC 堂國 氏 U1	國守 U2	辻 氏
	講師/主任	茅野 修司 様		
講評	プレーヤーが密集した時に判定した内容をどのようにプレーヤー、ベンチ、観客に伝えるかを工夫する必要がある。特にアングルが厳しかったり、動きながらの判定になると説得力が弱くなる。 前半は鳴らず、3Qからトラベリングがなるなど、トラベリングの判定基準の一貫性がなかった。 3POのメカニクスについて理解を深めなければならない。POCが異なることがあり、正確なPOCを理解していく必要がある。			
自己の感想	チャレンジしてすることは必要だが、マージナルコンタクトをファウルで判定しているケースもあるので影響までしっかりと見極め、その中で瞬時に分析をして判定を下すことが必要である。 昨日の反省でポジションアジャストは意識したが、それが中心となり判定に影響が出た部分もあった。今後の課題として正しい動き、メカを実現させなければならない。トラベリングについても明らかかなものを取り上げていくことで一貫性も出てくると思います。 最後になりましたが、ご多用の中、このような機会をいただき大会運営をしていただいた関係者の皆様並びに本研修会を開催していただきました審判委員会の皆様方に感謝申し上げます。			

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第69回 大阪総合バスケットボール選手権大会			
●日程	令和4年8月27日 (土) ~		令和4年8月28日 (日)	
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)			
●講師	茅野 修司 様			
●スケジュール	令和4年8月28日 (日)			
	9:00 PGC 10:00 ゲーム開始			
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 10:00 ~			
	対戦カード	大阪人間科学大学 VS 関西外国語大学		
	CC	堂國 和昭 氏	U1	國守 幹彦 氏
	講師/主任	茅野 修司 様		
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・クォーターが進むにつれてプレイにステイして判定できるケースが増えてきたので、ゲームの開始からそれができるようにするとよい。 ・トラベリングのコールを意識的に行っていたが、本当に成立していたものとそうでないものがあったので、映像を見て精度をあげていくこと。 ・POCの確認や、プライマリの確認など事前の準備を十分に行うことで自信をもって判定することができる。 ・プレイを判定する際に、ギャザーの確認やファウルコールの接触の責任、影響までをしっかり確認し、プレイを「分析する間」をとるとよい。 ・フルメンバーチェンジが行われた際には、改めてテンポセティングする必要があるのでその準備をしておくこと。 		
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの開始からテンポセティングとして正確な判定が求められていたことは、第1回ステップアップ研修会のゲームでも出ていた課題だったので、今後も改善していく必要があると感じた。ゲーム開始時の自身のメンタルに原因があると考え、プレイにステイして正確な判定ができていた時は、「ここプレイは自分がプライマリである。」と自信を持って判定できていたと思うので、今後はこれまで以上に事前の準備を十分に行い、メンタルを安定させてゲーム開始から判定にのぞんでいきたい。 ・CからTサイドのゴール下シュートファウルをセカンダリーで遅れてコールしたケースがあったが映像を見てふり返ると、オフェンスプレイヤーがバックボードの裏からシュートしており、接触の責任はオフェンスにあったのでノーコールが正しかった。接触とその影響は見ていたつもりだったが、責任の所在まで確認できていなかったケースだったので、改善していきたい。 ・トラベリングに関しては特に一貫性を持って判定していかなければならないと思うゲームだった。「これが鳴るならさっきのは？」というようなコールもいくつかあり、ミートの際の0歩めや1歩めの確認を正確に行い、一つひとつプレイを正しく判定できるようにしていきたい。 ・フルメンバーチェンジの際は、そのチームのプレイの質が変わってくるので、改めてテンポセティングをしていく必要があったと感じる。今後はそういったゲームの流れを読む視点も身につけていきたい。 		